令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　607

事務事業名称		第3プラント施設運営業務						
担当部署(R8年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1988(S63)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、大気汚染防止法、騒音規制法、下水道法・枚方市下水道条例、枚方市公害防止条例、水質汚濁防止法、大阪府生活環境の保全等に関する条例、ダイオキシン類対策特別処理法 等						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	適正な分別・収集からなる適正処理を実現し、計画的かつ安定的な施設の保全及び維持管理が行われている。						
	対象者(受益者)	家庭から生活ごみ等を排出する市民						
	現状・課題	ごみの適正処理及び安定性を確保できるよう、必要な施設保全や保守点検等を実施する必要がある。						
	事業の概要	ごみ処理に関する公害関係法、廃棄物関連法に定める基準を遵守し、第3プラントで一般ごみを適正に焼却処理し、発生する残渣物を適正に処理する。 (処理施設の概要) 名称:穂谷川清掃工場 所在地:枚方市田口5丁目1番1号 第3プラント(焼却処理能力:200t/日、昭和63年3月竣工)、排水処理施設(処理能力:402㎥/日、昭和56年3月竣工)、動物焼却炉(焼却処理能力:50kg/時、昭和57年3月竣工)						
	年間の主な事務	・第3プラント内のデータ処理設備、電気設備、非常用発電設備等各種機器の保守点検 ・第3プラントの定期補修工事、設備等(保守点検委託を行っている機器以外)の点検・修理 ・排水処理設備、井戸設備の定期補修工事、点検・修理 ・公害関係の分析調査及びごみ質分析						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	4.65人	5.40人	—	—
再任用	1.90人	1.15人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	45,871	50,424	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		45,871	50,424	—	—		
	物件費計		688,264	527,039	—	—	522,844	100.8%
歳出計			734,135	577,463	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		14,100	12,500	—	—	12,500	
	その他		283,024	31,809	—	—	19,264	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			297,124	44,309	—	—	31,764	
一般財源(物件費充当分のみ)			391,140	482,730	—	—	491,080	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 第3プラントの施設保全や保守点検等を行う。	日	223 日	164 日	— 日	— 日
② 第3プラントにより、市内域の一般ごみを焼却する。	t	33,544 t	22,103 t	— t	— t
③ 焼却灰・飛灰及び資源化した後に発生する不燃残渣を処理する。	t	3,528 t	2,637 t	— t	— t

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

ごみ処理に関する公害関係法、廃棄物関連法に定める基準を遵守しながら、第3プラントで一般ごみを適正に焼却処理し、発生する残渣物を適正に処理する。
枚方京田辺環境施設組合の運転稼働まで、第3プラントの安定稼働に務める。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	廃棄物処理計画に基づいてごみを適正に処理するため、公害防止を図りながら施設の維持管理及び運転管理を行った。その結果、計画どおりごみ焼却を実施するとともに排ガス等の法令基準値・自主基準値とも全て達成した。また、焼却廃熱を利用した発電を行い、余剰電力を電力会社に売電することで第3プラント焼却設備の効率的な運転に努めた。 ごみの焼却量は概ね想定どうりに推移しているが、労務単価の上昇や物価高騰の影響による委託料が増加し、事業コストは上昇している。
R7年度	廃棄物処理計画に基づいてごみを適正に処理するため、公害防止を図りながら施設の維持管理及び運転管理を行った。その結果、計画どおりごみ焼却を実施するとともに排ガス等の法令基準値・自主基準値とも全て達成した。また、焼却廃熱を利用した発電を行い、余剰電力を電力会社に売電することで第3プラント焼却設備の効率的な運転に努めた。令和6年度に比べ一般ごみの焼却量等が減少しているのは、令和8年3月末の第3プラントの休止を見据え、令和7年11月に焼却設備の稼働を停止したことによるものである。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	令和8年3月の枚方京田辺環境施設組合による可燃ごみ広域処理施設の本格稼働に伴い、穂谷川清掃工場第3プラントは、令和8年3月末で休止した。	R8年度方向性	休止

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	見直し	休止	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　608

事務事業名称		穂谷川資源循環センター施設管理業務						
担当部署(R8年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2013(H25)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市庁舎管理規則						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	穂谷川資源循環センターを利用する市民が、施設を安心して安全に利用できている状態。						
	対象者(受益者)	申請手続き及び持込ごみ等で施設を利用する市民。						
	現状・課題	穂谷川資源循環センターを利用する市民が、安全に利用できるよう施設保全や保守点検を実施する必要がある。						
	事業の概要	穂谷川資源循環センター(焼却施設を除く)の維持管理を行うため、施設保全及び保守点検等を実施する。 (施設の概要) 名称:穂谷川資源循環センター(焼却施設を除く) 所在地:枚方市田口5丁目1番1号 敷地面積:38,941㎡ 主な施設:管理棟(執務室及び作業員控室、昭和49年3月竣工、鉄筋コンクリート造3階建、建物面積2,382㎡)、公用車車庫(昭和49年12月竣工、鉄骨造耐火構造平屋建、建物面積1,208㎡)、旧管理棟(昭和40年3月竣工、鉄骨造2階建、敷地面積232㎡、平成25年3月に改築し、同年4月から、リサイクル施設「ひらかた夢工房」として使用)等。						
	年間の主な事務	穂谷川資源循環センター敷地全体の環境美化及び、管理棟の日常点検(警備・清掃・緑地帯管理等)、法定点検(火災報知器点検・受水槽高架水槽点検・空気環境測定)、敷地内の建物の点検や部分補修、動物焼却炉の定期補修等を計画的に行う。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	4.30人	4.45人	—	—
再任用	0.85人	0.90人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	37,586	41,300	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		37,586	41,300	—	—		
	物件費計		47,813	26,255	—	—	34,339	76.5%
歳出計			85,399	67,555	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		18,000	500	—	—	1,500	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			18,000	500	—	—	1,500	
一般財源(物件費充当分のみ)			29,813	25,755	—	—	32,839	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 穂谷川資源循環センター(焼却施設を除く)の施設保全及び保守点検等を行う(執行率)	%	100 %	100 %	— %	— %
② 動物焼却炉により、動物の遺骸を焼却する。	匹	2,006 匹	1,990 匹	— 匹	— 匹

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—

算出方法: —

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—

算出方法: —

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

—

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	穂谷川清掃工場(焼却施設を除く)の施設保全及び保守点検、敷地管理等を計画どおり実施した。事業コストについては、管理棟(昭和49年建設)などの施設の老朽化により、修繕費用が増加傾向にある。
R7年度	穂谷川清掃工場(焼却施設を除く)の施設保全及び保守点検、敷地管理等を計画どおり実施した。委託業務については、労務単価の上昇や物価高騰による委託経費の増大に対応するため、施設総合管理委託の導入を進めた。なお、同委託の導入により、個別委託に比べ、増大する予算を令和8年度からの3年間で約500万円圧縮した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	令和8年度から新たに導入する施設総合管理委託を効果的、効率的に活用しながら、穂谷川清掃工場(焼却施設を除く)の施設保全及び保守点検、敷地管理等を計画的に実施していく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**見直し**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　624

事務事業名称		学校給食牛乳パックリサイクル事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2022(R4)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	穂谷川清掃工場へ搬入される学校給食牛乳パックについて、焼却ではなく適正な処理(破砕洗浄)を行い資源化(再生)することで、焼却ごみの削減・リサイクルの意義の見える化を行い全児童・生徒やその保護者にも知ってもらうなど環境教育の充実化を図り、ごみの減量化や地球環境問題の取組(カーボンニュートラル)につなげる。						
	対象者(受益者)	小・中学校の学校給食で牛乳を飲む全児童・生徒/小・中学校の学校給食で牛乳を飲む全児童・生徒の保護者						
	現状・課題	焼却処理であったものを資源物としていくが、資源化できる物として適正に処理(破砕洗浄)する必要がある。/リサイクルの必要性を周知していくための手段(見える化)が必要。						
	事業の概要	令和4年4月から学校給食牛乳パックの処理が、自治体で義務化されたことに伴い、市立小中学校から給食牛乳パックを回収し、破砕・洗浄したうえで、市と製紙会社と運搬事業者との3者による公民連携を活用し、段ボールなどにリサイクルを行う。 また、給食牛乳パックを破砕・洗浄する動画を作成し、動画を市教育委員会に提供し、環境教育で活用することで、ごみ削減の意識の啓発を図るとともに、カーボンニュートラルの推進を図る。						
	年間の主な事務	・学校給食牛乳パック破砕・洗浄後、公民連携(協定)によるリサイクル						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.85人	0.90人	—	—
再任用	0.45人	0.40人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	8,932	9,508	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		8,932	9,508	—	—		
	物件費計		0	0	—	—	0	0.0%
歳出計			8,932	9,508	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	0	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 受け入れた給食牛乳パックを適正に処理した割合 (適正に処理できた給食牛乳パック量／受け入れた給食牛乳パック量×100)	%	100 %	100 %	— %	— %

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 適正処理し資源化した牛乳パックを公民連携(協定)により運搬する。

指標: 適正処理し資源化した牛乳パックの搬出量

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	45	45	45	45	t
実績	46	43	—	—	t

算出方法: 市内小中学校の搬出量

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 可燃ごみとして焼却処理される牛乳パックが資源化される。

指標: 適正処理し資源化した牛乳パックの資源化率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	102	95	—	—	%

算出方法: 【資源化量／受入量×100】

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市立小中学校から排出される給食牛乳パックを回収し、再資源化を行うことで焼却ごみの削減を図る。また、これらの仕組みを環境教育で効果的に活用することで、次代を担う子どもたちの環境問題に対する意識を高め、循環型社会の形成やカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みの充実につなげていく。。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	市立小中学校から給食牛乳パックを回収し、破砕・洗浄したうえで、市と製紙会社と運搬事業者との3者による公民連携を活用し段ボールなどに再資源化を図った。 令和6年度は、市立小中学校から受け入れた給食牛乳パック(46.49t)について、すべて再資源化を図れている。
R7年度	市立小中学校から給食牛乳パックを回収し、破砕・洗浄したうえで、市と製紙会社と運搬事業者との3者による公民連携を活用し段ボールなどに再資源化を図った。 令和7年度は、市立小中学校から受け入れた給食牛乳パック(42.27t)については、すべて再資源化を図れている。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、公民連携を活用しながら、市立小中学校から受け入れた給食牛乳パックの再資源化に取り組む。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　625

事務事業名称		穂谷川資源循環センター資源循環業務						
担当部署（R8年度機構）		部：　環境部		課：　穂谷川資源循環センター		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2022(R4)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	廃棄物清掃に関する法律						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	穂谷川清掃工場に搬入された空き缶・びん・ガラス類、小型家電、水銀使用廃製品、リチウムイオン電池のリサイクルや、市民が直接持ち込まれた粗大ごみを可燃物・不燃物・資源物等に分別し、再資源化を図ることで、焼却ごみを減量し、循環型社会を推進する。						
	対象者（受益者）	穂谷川資源循環センターのごみ処理により、環境に影響を受ける市民						
	現状・課題	地球環境問題の影響により、今後についても資源化やごみの分別は重要であり、適切な分別及び資源化に努め、ごみの減量化を図る。						
	事業の概要	穂谷川清掃工場に搬入された空き缶・びん・ガラス類、小型家電、水銀使用廃製品、リチウムイオン電池などのリサイクルを行う。また、市民が直接持ち込まれた粗大ごみを可燃物・不燃物・資源物等に分別し、再資源化を図る。						
	年間の主な事務	・市民の持込みごみの分別によるリユース・リサイクル ・空き缶・びん・ガラス類、小型家電、水銀使用廃製品等のリサイクル（中間処理含む）						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制 （人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	8.20人	8.69人	—	—
再任用	2.75人	3.20人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 （千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	77,691	88,296	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	211	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	77,902	88,296	—	—		
歳出 物件費計	46,261	54,146	—	—	6,986	775.1%
歳出計	124,163	142,442	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	198	258	—	—	266	
歳入計（物件費に充当される特定財源）	198	258	—	—	266	
一般財源（物件費充当分のみ）	46,063	53,888	—	—	6,720	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

	年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①	持込みされた市民持込ごみを可燃物、不燃物、資源物に適正に分別してごみ量を減らす。	t	26.1 t	52.6 t	— t	— t
②	空き缶・びん・ガラス類及び小型家電、水銀廃製品等について受け入れる。	t	2,737.2 t	2,568.1 t	— t	— t

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					—
	実績					—
	算出方法	—				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					—
	実績					—
	算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

—

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	穂谷川清掃工場に市民が直接持ち込まれたごみを可燃物・不燃物・資源物、リユース可能なものに分別し、リユースとリサイクルを推進した。令和6年度は、紙類6.35t、金属類19.71tの売払いを行っている。また、空き缶・びん・ガラス類、小型家電、水銀使用廃製品など2751.5tを受け入れ、リサイクル(中間処理を含む)を行った。
R7年度	穂谷川清掃工場に市民が直接持ち込まれたごみを可燃物・不燃物・資源物、リユース可能なものに分別し、リユースとリサイクルを推進した。令和7年度は、紙類3.85t、金属類48.71tの売払いを行っている。また、空き缶・びん・ガラス類、小型家電、水銀使用廃製品な2,568.1tを受け入れ、リサイクル(中間処理を含む)を行った。 また、第3期実行計画において、令和8年度から「リユース事業の本格実施」が掲げられていること、穂谷川清掃工場第3プラントが休止となる状況を踏まえ、令和8年度以降のリユース事業等の検討を進めた。また、再資源化を推進するため、小型充電式電池の売払いを検討した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	令和8年3月末に休止する穂谷川清掃工場第3プラントを活用し、ごみ減量と資源循環の拠点ごみ減量と資源循環となる枚方市リサイクルセンターを令和8年6月1日に開設する。同センターでは、粗大ごみから選別したリユース品や、市民から提供されたリユース品の展示、販売を行うほか、身近にできる環境に優しい行動やリサイクルの仕組み、自然環境の大切さについて学べる環境展示など、ごみ減量や資源の有効活用に関する普及啓発を行う。また、ご家庭で不要となったもので、まだ使用できるものや、リチウムイオン電池など再資源化可能なもの、子ども食堂などにお届けする食品なども、窓口で常時受付を行う	R8年度方向性	**拡充**

参考	方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
		現状維持	**現状維持**	**拡充**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　653

事務事業名称		し尿処理業務						
担当部署(R8年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、下水道法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	「枚方市」及び「枚方市一般廃棄物収集運搬及び浄化槽清掃許可業者」が、市域から発生するし尿・浄化槽汚泥等を滞りなく搬入でき、そして、し尿・浄化槽汚泥等について、法令に適合した処理を適切に行い、生活排水の改善が図られている状態。						
	対象者(受益者)	「枚方市」及び「枚方市一般廃棄物収集運搬及び浄化槽清掃許可業者」/汲み取り便所、浄化槽及びディスポーザを設置しており利用している者						
	現状・課題	し尿・浄化槽汚泥等を滞りなく搬入できるようにする必要がある。/し尿・浄化槽汚泥等について、法令に適合した処理を適切に行い、生活排水の改善が図られるようにする必要がある。						
	事業の概要	市域から収集したし尿及び浄化槽汚泥等を、本施設で適正に処理し、放流基準を遵守できるよう、適切な維持・管理を行っている。 希釈放流方式 大阪府の許可条件 計画処理量　約60kl/日　放流水量　1,140㎥/日(令和3年度まで) 計画処理量　約45kl/日　放流水量　855㎥/日(令和4年度から令和8年度まで)						
	年間の主な事務	・受入業務及び受入設備維持管理業務 ・前処理設備維持管理業務 ・希釈放流設備維持管理業務 ・脱臭設備維持管理業務 ・給排水設備管理業務 ・その他し尿処理に関連する事務						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	4.12人	4.65人	—	—
再任用	1.01人	1.01人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.09人	0.09人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	37,055	43,525	—	—		
		会計年度任用職員	231	168	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		37,286	43,693	—	—		
	物件費計		196,956	139,045	—	—	158,776	87.6%
歳出計			234,242	182,738	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		45,700	3,800	—	—	72,300	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			45,700	3,800	—	—	72,300	
一般財源(物件費充当分のみ)			151,256	135,245	—	—	86,476	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 搬入されたし尿・浄化槽汚泥等に対し、希釈放流方式にて処理する。(年間搬入量)	kl	10,308.57 kl	10,676.37 kl	— kl	— kl

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明	希釈放流方式により、搬入されたし尿・浄化槽汚泥等を適切に処理する。
指標	年間放流量

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	238,466	228,855	221,989	215,330	㎥
実績	229,581	237,518	—	—	㎥
算出方法	放流量				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	し尿・浄化槽汚泥等について、法令に適合した処理を適切に行い、生活排水の改善が図られている。
指標	し尿及び浄化槽汚泥等に対する処理完了率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	—	—	%
算出方法	処理量/搬入量×100				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

し尿の処理量が減少していく中で、処理の効率化を進めるため、運転管理の民間委託の検討をしていく。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	市域から収集したし尿及び浄化槽汚泥等を、本施設で適正に処理し、放流基準を遵守しながら、適切な維持・管理が行えた。
R7年度	市域から収集したし尿及び浄化槽汚泥等について、引き続き、放流基準を遵守しながら適正に処理を行った。し尿及び浄化槽汚泥等の受入量は、令和7年度は10,676.37kℓ(平均処理量は約29.3 kℓ /日)となっており、令和6年度と比べほぼ横ばいであった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	市域から収集したし尿及び浄化槽汚泥等について、引き続き、放流基準を遵守しながら適正に処理を行っていく。また、今後のし尿及び汚泥等の処理のあり方については、交野市等との広域連携による共同処理の可能性について検討していく。	R8年度方向性	**見直し**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**見直し**	**見直し**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　654

事務事業名称		希釈放流センター施設維持管理事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　環境部	課:　穂谷川資源循環センター			区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	建築物衛生法、労働安全衛生法、水道法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	「枚方市」及び「枚方市一般廃棄物収集運搬及び浄化槽清掃許可業者」が、市域から発生するし尿・浄化槽汚泥等を滞りなく搬入でき、し尿・浄化槽汚泥等を法令に適合した処理を適切に行えて、施設の維持管理ができている状態。						
	対象者(受益者)	「枚方市」及び「枚方市一般廃棄物収集運搬及び浄化槽清掃許可業者」/汲み取り便所、浄化槽及びディスポーザを設置しており利用している者						
	現状・課題	「枚方市」及び「枚方市一般廃棄物収集運搬及び浄化槽清掃許可業者」が、市域から発生するし尿・浄化槽汚泥等を滞りなく搬入でき、し尿・浄化槽汚泥等を法令に適合した処理を適切に行い、施設の維持管理を実施する必要がある。						
	事業の概要	○施設の概要 希釈放流センター（所在地:出口2丁目30番1号・開設年月日:平成5年9月30日・敷地面積:33,175.77㎡ 延床面積:5,498.94㎡・建物構造:鉄筋コンクリート造2階建外） ○委託業務(清掃委託・貯水槽清掃委託・警備委託・害虫駆除委託・空気環境測定委託・除草樹木剪定等委託) ○事業内容 警備委託(機械警備)による休日・夜間の管理。 清掃委託等による建物の維持管理及び除草樹木剪定等委託による施設内の美観の維持。						
	年間の主な事務	・委託の契約事務 ・委託業者の監督、委託料支払						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.90人	0.90人	—	—
再任用	0.37人	0.37人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	8,890	9,349	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		8,890	9,349	—	—		
	物件費計		6,156	6,051	—	—	9,112	66.4%
歳出計			15,046	15,400	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			6,156	6,051	—	—	9,112	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 希釈放流センターの施設保全や保守点検等を行う。	件	6 件	6 件	— 件	— 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	希釈放流センターが適正に維持管理されている。
指標	施設維持に係る当初予算額に対する決算額の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%以内
実績	60	66	—	—	%
算出方法	決算額/当初予算額×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

し尿処理業務を滞りなく、適切に行っていくために、施設の維持管理を効率的に進めていく。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	し尿処理業務を滞りなく、適切に行っていくために、施設の維持管理を効率的に進め実施した。
R7年度	市域から収集したし尿及び浄化槽汚泥等を滞りなく処理するため、施設の維持管理を適切に実施した。令和3年度から実施している施設の老朽化対策工事については、資材の調達に期間を要したため、完了が令和8年4月にずれ込んだが、工事完了により、令和15年度まで施設の安定稼働が見込めることから、令和8年度からの希釈放流センター運転管理業務の委託に向けて準備を進めた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	希釈放流センター運転管理業務の委託化により、施設管理の効率化を図りながら、市域から収集したし尿及び浄化槽汚泥等をの処理を適切に実施していく。	R8年度方向性	見直し

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	見直し	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　675

事務事業名称		公衆便所管理事務						
担当部署(R8年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	28.美しく魅力あるまち並みが育まれるまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2010(H22)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、枚方市公衆便所条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	公衆便所を利用する者が、快適に利用できている状態。						
	対象者(受益者)	公衆便所を利用する者						
	現状・課題	公衆便所を利用する者が、快適に利用できるよう必要な維持管理を実施する必要がある。						
	事業の概要	公衆便所の維持・管理のため、毎日の施設・設備の清掃、ゴミやクモの巣などの除去、消耗品の補充、軽微な故障修理等については、清掃業務委託により実施。 ・西口公衆便所(枚方市桜町2番23号) 開設　昭和28年3月、敷地面積　23.14㎡、延床面積　16.00㎡、建物構造　鉄筋コンクリート造 (男子　洋式　1、小便器　1) (女子　洋式　1) ・枚方公園駅前公衆便所(枚方市伊加賀北町5番11号) 開設　昭和34年7月、敷地面積　51.06㎡、延床面積　20.80㎡、建物構造　鉄筋コンクリート造 (男子　和式　1、小便器　2) (女子　和式　2) (身障者用　洋式　1)						
	年間の主な事務	・委託業者の監督、委託料支払 ・故障設備の交換作業 ・苦情、要望への対応						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.10人	0.10人	—	—
再任用	0.01人	0.01人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	822	874	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		822	874	—	—		
	物件費計		2,106	2,474	—	—	2,721	90.9%
歳出計			2,928	3,348	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			2,106	2,474	—	—	2,721	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 公衆便所の施設・設備の清掃等、各種施設保全、保守点検等を行う。	回	365 回	365 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 公衆便所が適切に維持管理されている。

指標: 修繕料、補修工事等に係る当初予算額に対する決算額の割合。

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%以内
実績	80	77.6	—	—	%
算出方法	決算額/当初予算額×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

—

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	公衆便所の適切な維持管理を実施しながら、あり方についての検討も行った。
R7年度	枚方公園駅前公衆便所、西口公衆便所について適切に維持管理を実施した。 老朽化が進行する西口公衆便所については、継続的な維持管理が困難であること、また周辺の公共施設等にトイレが設置されている状況等を踏まえ、令和7年度末で廃止した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	利用者が公衆便所を快適に利用できるよう、引き続き、公衆便所の適切な維持管理を実施する。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	見直し	見直し	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　877

事務事業名称		穂谷川資源循環センター運営事務						
担当部署(R8年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2022(R4)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市廃棄物の減量及び適正処理の促進に関する条例、労働安全衛生法、地方自治法、枚方市事務決裁規定、公害健康被害の補償等に関する法律等						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	課の運営を円滑に執行する。						
	対象者(受益者)	課の職員						
	現状・課題	課の運営を円滑に図る必要がある。						
	事業の概要	穂谷川資源循環センターの事務事業、予算・決算の執行管理、各種照会・回答、職員の出退勤、休暇等の管理・報告などの庶務事務全般と、残量入りのガスボンベ・スプレー缶、小型充電式電池(リチウムイオン電池等)の受付、市民からの粗大ごみの持込みに係るごみ処理券の販売管理、市民からの各種問い合わせの対応等を行う。						
	年間の主な事務	・庶務事務全般(事務事業、予算・決算の執行管理、各種照会・回答、職員の出退勤の管理・報告等) ・残量入りのガスボンベ・スプレー缶、小型充電式電池(リチウムイオン電池等)の受付 ・粗大ごみの持込みに係るごみ処理券の販売管理 ・市民からの各種問い合わせの対応等						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	3.45人	3.85人	—	—
再任用	0.60人	1.35人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.25人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	29,720	38,760	—	—		
		会計年度任用職員	483	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		30,203	38,760	—	—		
	物件費計		4,284	4,770	—	—	5,367	88.9%
歳出計			34,487	43,530	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			4,284	4,770	—	—	5,367	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ―					

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: ―

指標: ―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					―
実績					―
算出方法	―				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: ―

指標: ―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					―
実績					―
算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

―

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	事務事業、予算・決算の執行管理、各種照会・回答、職員の出退勤、休暇等の管理・報告などの庶務事務全般と、残量入りのガスボンベ・スプレー缶、リチウムイオン電池(モバイルバッテリー)の受付、市民からの粗大ごみの持込みに係るごみ処理券の販売管理、市民からの各種問い合わせの対応等を行った。 令和6年度実績　ガスボンベ・スプレー缶　6,334本　リチウムイオン電池(モバイルバッテリー)　680個
R7年度	事務事業、予算・決算の執行管理、各種照会・回答、職員の出退勤、休暇等の管理・報告などの庶務事務全般と、残量入りのガスボンベ・スプレー缶、小型充電式電池(リチウムイオン電池)の受付、市民からの粗大ごみの持込みに係るごみ処理券の販売管理、市民からの各種問い合わせの対応等を行った。 令和7年度実績　ガスボンベ・スプレー缶　9,128本　　リチウムイオン電池(モバイルバッテリー)　3,947個
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、庶務事務の適正に執行する。残量入りガスボンベ・スプレー缶、リチウムイオン電池(モバイルバッテリー)、食品の受付、ごみ処理券の販売管理、市民からの各種問合せ対応等を適切に実施していく。また、令和8年6月1日に開設する枚方市リサイクルセンターにおけるリユース品等の受付業務を新たに実施する。	R8年度方向性	**拡充**

参考　方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**拡充**	―	―